優秀賞（岩手県知事賞）

大好きな景色を壊さないために

盛岡中央高等学校附属中学校
二年　今村　心晴

朝、目を覚ませば、目の前にどっしりと構える岩手山。川やたくさんの水路を流れる、サラサラとしたきれいな水。季節ごとに色が変わる、視界いっぱいに広がる田んぼ。幼い頃から変わらないこの景色は、今でも変わらず大好きだ。この大切で大好きな景色を創っている一つに、水がある。ふとした時に思う、この水はどこから来ているのか。そして、この美しい水を守るためにはどうしたらいいのだろうか、とも。

私の住む八幡平市には、いたる所に湧き水や清水がある。その中には、名水と呼ばれるものもある。八幡平の名水といえば、松尾地区にある、「金沢清水」が挙げられる。これは周辺の七つの湧き水の総称だが、日本名水百選の一つにも数えられている。七つの湧き水の一つに、「座頭清水」と呼ばれる所がある。その場所は青々とした緑に囲まれ、泉は透明度が高く美しく、水底の様子までもが見えるほどだ。静かなこの場所が八幡平の暮らしを支えている水源地の一つだと考えると、とてもありがたく思えてくる。

八幡平を潤す水の源は、ブナの森にある。そのブナの森によって保たれていた雪解け水が、湧き水や清水として地上に出て、私たちが暮らす里山へと流れてくる。私たちが使う水は、山の存在が大きい。もし、山の雪解け水が無かったら…もし、水を保ち続けられる森が無かったら…そう考えると、身近にある「あたりまえ」に感謝しなければいけないと思った。水は生活に必要不可欠で、これからも守っていかなければならない。守るためには、どのような行動をとっていけばいいのだろう。

最近、水に関するニュースを多数目にすることがある。水質の悪化もその一つに入る。水質の悪化の原因には、産業排水や生活排水に加え、水温上昇や渇水、豪雨といった気候変動も挙げられる。小学生の頃に、

全校で、「クリーン作戦」と題したゴミ拾い活動を行っていた。地域全体を手分けして歩き、ゴミを拾っていった。水路の中、道路の上、河川敷と、あらゆるところにゴミが落ちていた。心が痛くなった。でも、毎年ゴミを拾っていくうちに、少しずつだがゴミは減っていった。目に見えるゴミを全て拾い終え、少しきれいになった地域を見て、心が軽くなった。田んぼも畑も多いこの地域での水は、とても大切だ。たからこそ、もっと、きれいな水を保ち続けられる環境を守っていきたいと思った。

私たちができることは、探せばたくさんあるものだ。節水。水を使う時のちょっとした工夫。水源を守るボランティア活動。気候変動を抑えるための行動。すべて、今と未来のためになるのではないかと思う。例えば、水を使う時のちょっとした工夫。食べ残しや飲み残しを減らしたり、洗剤を使いすぎないようにしたり、排水溝にネットをつけて下水道にくずを流さないようにしたり。少しの意識があればできることだと思う。実際に私もそうだった。少し意識して変えようと思えば、変われるのだと気づくことができた。

今あるきれいな水が自分たちの手によって汚くなっていってしまうことは、悲しいし苦しい。次の世代、その次の世代と、未来の人々が見る景色が汚いものであってほしくない。八幡平のきれいな湧き水や清水、清流を守るために。大切で大好きな景色をずっと見続けていくために。そして、未来に残すために。そのために今、もっともっと考えて、行動しなければならない。これからも、少しずつ少しずつ、変わり続け行動し、この大好きな景色を残していきたい。

優秀賞（岩手県知事賞）

キャンプと水

盛岡市立土淵中学校
二年　植津　愛花

私はある日、キャンプに行った。キャンプは自然環境のもとで必要最小限の装備で生活したり、宿泊したりするものだ。誰にも邪魔されない自由を味わったり、焚き火を一からおこしその火で炊いて食べるご飯のおいしさがキャンプの醍醐味である。

国語の授業で「水」をテーマとした作文が課題にでた。そのとき大好きなキャンプが思い浮んだ。キャンプをするときは水を持参していく。使いすぎるとなくなりご飯が食べれないなどの不便がでる。いつもは水道が近くにあるから、蛇口をひねればすぐ水が使える環境にいる。水を出しっぱなしで顔や手を洗っているがキャンプの中では不便があるからこそ無意識ながら「丁寧に使わなきゃ」と行動していることに気付かされた。

そこで今の日本の水不足の現状を調べることにした。二〇二二年三月、高知県室戸市でおよそ千二百世帯まで影響するほどの大規模な、給水制限が発生した。その原因は、降雨量が非常に少なかったことにある。河川の現状の影響もあり、過去に何度も渇水が発生している。日本には梅雨があり、比較的降水量の多い国で世界平均と比べると日本の年間平均降雨量は約一・六倍にもおよんでいる。日本の降雨量は世界的に見ても多いほうだが手軽に利用できている生活用水も、将来供給が中断されるリスクはおおいにある。

毎日、少しずつ水を「丁寧」に使っていきたいと思った。

水について、調べるうえで「汚染水」というキーワードがでてきた。汚染水と聞いて、ちょっとした残りものや洗剤を流しに捨てていることが思い浮んだ。自分だけなら、ちょっとだけならという気持ちが積もり積もって大きな問題となっていることに気がついたのだ。そこで汚染水をなくすには食べ残しをしないとい

う努力や油物は先にふき取ってから洗い流すなどたくさんの工夫を発見することで汚染水が減る。

湖沼の水質問題は、悪臭の発生、水生生物の生育、環境の悪化、無生物化等生態系への悪影響、工業、農業、生活水利用も不適合となるなど、生活や環境破壊などをもたらす。

私が大好きなキャンプを正しく楽しむためには環境への配慮は必要不可欠だと学んだ。キャンプで「あたりまえ」のことをほんの少し日常生活に取り入れたら、楽しく地球にやさしい暮らしができるのではないかと思った。

これから、私は環境問題に興味を持ち続け水を守るために、節水したり、汚染水は流さずに、自分にできる小さなことを、やり続けようと思っている。何より水を「丁寧に」そして、「大切に」自分だけ、ちょっとだけではなくてみんなが、少しだけでも環境問題を意識して、よりよい未来のために生活できるように願っている。将来、

「大自然でのキャンプを続けられるために。」

「きれいな環境のために。」

優秀賞（岩手県知事賞）

未来に残す

盛岡市立見前中学校
三年　佐々木　友里江

みなさんは、水について考えたことはありますか？水は生物に命を育みますが、時に人間などの行動によって生物に悪影響を及ぼします。

しかし、抗廃水処理の継続と多くの人々の努力によって今、身近に感じる水が存在し続けることができます。

私は、「公害」のことと「水質汚濁」の二つの点から処理施設の大切さや、多くの人々の努力について考えてみます。

公害である「イタイイタイ病」や「水俣病」は工場から出た汚れた水が原因でした。これは、下水道が十分に整備されていないため、生活排水や工場排水がそのまま川や海に流れ、汚染された魚を人間が食べたことによって、健康被害が出ました。また、人間の問題だけでなく、水棲生物が減少すれば捕食している生物は餌が取れなくなるので、捕食生物までもが減少します。だから、野生生物が絶滅の危機に追い込まれ、生物の多様性をも阻害してしまいます。これにより、水質汚濁を防止し、国民の健康と安全を保障する「水質汚濁防止法」や船舶などからの油や有害物質・廃棄物を海洋に排出することや海底に廃棄することを規制する「海洋汚染防止法」を制定しました。このことにより、下水処理場で処理できない有害な物質は流してはいけないので、下水道を整備しました。これによって、川や海は綺麗になったので、公害はなくなり、生物が棲めるようになりました。

北上川の水質汚濁は、松尾鉱山の抗廃水が原因でした。松尾鉱山は閉山しましたが、抗廃水の流出は止まらず硫化鉄鉱、水、酸素との反応によって発生する「ＰＨ２程度の強酸水」で、有害なヒ素を含んでいるので、汚染が拡大していきました。この抗廃水の検討を進めるために五省庁会議で強酸性水を中和剤で中和する

「旧松尾鉱山新中和処理施設」を九三億円で建てました。この旧松尾鉱山新中和処理施設は、年間で東京ドーム七・三杯分の処理水を出します。そのため、もし事故が発生した場合、北上川流域に住む約一〇〇万人の住民に影響が出て、想定被害は約五〇〇億円といわれています。なので、三十年以上三六五日、二四時間休むことなく、責任を抱えながら、今も活動し続けています。

このことにより、北上川は「母なる川」としてよみがえりましたが、今でも強酸性の抗廃水が流出しているので、年間約六億円の事業費を費やしています。私が小学生の時に社会科見学で下水処理場に行き、多くの機械や時間をかけて、綺麗な水にしているということや、二四時間体制で作業しているということを知りました。だから、綺麗な水にするために多くの手間と時間がかかっています。

私が挙げた「公害」と「水質汚濁」の二つの点で、共通しているのは、綺麗な自然を取り戻そうと努力している人がいて、その努力によって生物達は生きることができるということです。このような人達の努力を無駄にしないためにも、水を汚さない工夫として私は食器を洗う時に洗剤を出しすぎないようにしたり、学校で黒板クリーナーの中身を掃除する時に、内にあるチョークの粉を捨ててから水道で洗うようにして、汚染水が大量に流れないようにしていきたいです。

一人一人の行動によって及ぼされる環境への影響は計り知れません。一人一人が未来の世界を担っていくということを自覚して、今ある美しい自然を残していくことが大切だと思います。

優秀賞（岩手県知事賞）

命の水

岩手県立一関第一高等学校附属中学校
三年　菅原　さくら

あなたは水と聞いて何を思い浮かべるか。洗濯の水、炊飯の水、私達が飲む水など、人それぞれ違うイメージがあるだろう。その中で、生きるうえで最も大切なものだと私は思う。

私はいつも当たり前のように水を使っている。蛇口を回せばきれいな水が出てくる。その水を普通に飲むことができる。それが普通になっている。しかし、世の中にはきれいな水を当たり前に飲めない人々がいる。

その中の一つ、アフリカ諸国の人々は安心して飲める水が身近に少ない。蛇口から水が出ることはなく、家族を守るために多くの子どもたちが水を汲んでいる。子どもたちはやっとの思いで水を汲んでいるのだ。あなたもテレビコマーシャルや教科書でその光景を見たことがあるのではないか。決してきれいとは言い難い水源にたどり着いては水を汲み、一日中生きるために遠い道のりを歩いている。しかし、やっとの思いで汲んだ水も、泥や細菌、動物のフンが混じった危険な水が多い。「どんなに汚くても生きるためには飲むしかない」そんな状況で生活しているのだ。その危険な水を飲み、命を落としている人々が何人もいる。命を落とさなくても、危険な水のせいで体調を崩して苦しんでいる人々が私達が知らないところで涙を流している。そしてまだ私達よりも小さい子どもが今日は何人亡くなってしまっているのだろう。私達はそんな人々がいるとは知らずに、当たり前のようにきれいな水を飲めているのだ。そうだ、私達は知らず知らずのうちに恵まれていることを忘れてしまうのだ。

しかし、私達もそんな人々の気持ちが少しわかる時が来る。二千十一年に起こった東日本大震災だ。私は当時一歳だったので、震災の記憶がない。そのため、母に震災の様子を教えてもらった。私達は当時北上市に住んでおり、内陸だったため津波の心配はなかった。

東日本大震災では全てのライフラインが止まってしまった。昨日のように蛇口をひねっても水が出てこないのだ。だが、北上市は被害がそこまで大きくなかったため、四日間ほどで復旧した。毎日当たり前のように水を使っていたので四日間だけでも大変だったそうだ。この話を聞いて、限られた水で一日を生活するのは本当に不便だと感じた。いつも当たり前のようにあるから、私達は不自由なく暮らせているのだと改めて実感した。

私の家では東日本大震災の後から節水に力を入れている。また、ＳＤＧｓもあってか私も節水を意識し始めた。

例えば、お風呂の水を洗濯に使ったり、手を洗うときにこまめに水を止めたりしている。その他にも取り組みがあると思うが、まずは一人一人が水を大切にする意識を持つことが大切だと思う。

今日も子どもたちは水を汲んでいる。私達の知らないところで今も子どもたちが家族を守るために遠い道のりを歩いている。その子どもたちの命を救うためにまずは身の回りでできることを探してみてはどうだろうか。蛇口から出る水はとてつもなく貴重な水、命の水だということを私達は忘れてはいけないのだ。

優秀賞（岩手県知事賞）

安全安心な水を日本だけではなく世界中に

岩手大学教育学部附属中学校
三年　山田　結心

資源は底がみえない物だろうか。そのために私たちはどうやって資源を守っていくことが正解なのだろうか。

私たちの周りにはたくさんの資源がある。その中で最も身近な資源が、水である。水は私たち人間だけでなく、農作物や林業、そして動物が育つために欠くことの出来ない資源。

水は主に降水、雨が基になっている。人間も農作物も土業も家畜も、水がないと全てが停止してしまう。

母から聞いたことがあるのだが、この日本でも、私が生まれる前になかなか雨が降らず雨不足で米がほとんど収穫出来なかった年があったそうだ。全く収穫出来なかった訳ではないが、今は亡き私の祖父が米農家の人間で自分たちと親戚に配るのでいっぱいいっぱいだったと言っていた。夏には綺麗な水田が広がる田んぼは土が割れ、干からびた田んぼが続き、米大国日本は、水不足に勝てず外国から米を輸入した。

水が不足する、ということは我々の命にも関わることだ。

私たちは小学校四年生の頃、浄水場へ見学に行った。水をどのように綺麗に処理し、再び飲み水にして送り出されるのかを学習した。又、五年生の頃には下水道の事を学習し、水の大切さを全員で標語コンクールに応募した。その時、私は下水道の標語コンクールで大きな賞をいただいたので、それをきっかけに家での水の使い方を見直すきっかけになった。

今、ＳＤＧｓを始め色々な物をエコ利用する事が当たり前になってきている。飲み物は水筒やタンブラーに入れて持ち運びをする。ＳＤＧｓの十七の目標の中には

「安全な水とトイレを世界中に」

という項目がある。日本では綺麗な飲み水と綺麗な公

共トイレが、当たり前になってきている。だが、私はテレビで発展途上国では、子供が重い水を何キロもの道のりをかけて運び、ろ過されていない、濁った水を家事用だけでなく、そのまま飲料として飲んでいるのを観る。

「私たちは恵まれた環境で水が使えているの

だから、一人一人が節水に心がけ、使って

いかなければならない」

と思った。蛇口をひねれば簡単に水が流れてくる。公共の公園でも、綺麗な水が出てくる。これらは全て浄水場や下水場、上下水道局の方々が使用した水を綺麗にしてくれているからだ。

私たち一人一人も意識を変えていかなければならない。私たちは普段、当たり前のように水が蛇口から出てくるので、そのありがたさを感じたことは少ないのではないだろうか。

酷暑と言われた去年の夏、私は水を美味しいと初めて思った。水は味がしない。普段は何も考えず、味のない水を飲んでいるのかもしれない。息をするのも暑かった昨夏、初めて水が美味しいと思った。飲んだ水が喉を通り食道を抜け、胃に到達するのが分かった。

人間の体は約六十％が水で出来ている。

今月も母が言う。

「今月の水道代は何千円。夏になると洗濯の

回数が増えるから気をつけてね。」

毎月恒例だ。だが、私たち姉弟はそれを嫌だと思ったことはない。下の妹や弟は、はーいと返事をするだけだが、私と姉は

「そんなに使った？」

と言葉には出さず、顔を見合わせる。

水は化学によって作ることが出来るらしい。ただし五百ミリリットル作るのに十万円かかるそうだ。本当に人間に死が追い迫る程の水不足になったら、化学の力に頼る日が来るかもしれない。だが私たちが水筒で水分を携帯したり、ちょっとした意識や工夫で、安全な水を全ての国に届けることが、近い将来ＳＤＧｓの

項目の一つとして出来るかもしれない。

佳作（岩手県知事賞）

清き北上川を守る

盛岡市立見前中学校
三年　阿部　蒼士

北上川。岩手県と宮城県をまたぐ長大な河川である。北上川の清流は、農業、工業、生活など、私達が生きていく為にしなければならない営みに使用する用水として、生活面から人々を支えているといえる。

北上川と言えば、私の通う中学校の校歌にも北上川について述べられた部分がある。それは、北上川を流れる水が奏でるせせらぎが響いている様子を僅かな二行で表している。「北上川の映る景色、清水の音は、それ程までに美しいものなのか。」

この学校の生徒となり、校歌を歌い始めたばかりの私は、そのような疑問を抱いていた。北上川について知っていることは、その名前のみで、実際に赴いてその景色を見たことは一度も無かった。よって、私は北上川の存在を詳しく知らなかったのだ。

しかし、私の中のそのような疑問がさっぱり雲散霧消する出来事があったのだ。中学一年生となってからしばらくして、父親と母親が休日だという日に盛岡駅からそう遠くない親戚の自宅を訪ねた。その帰りに、私達は北上川沿いの道を歩くことになった。桜の花びらは、もうすでに全て落ち、夏らしい陽気さが姿を現すようになってきた初夏の時期であったため、川沿いの右手には赤色の花々が美しく咲いている。一方、左手に見える北上川の姿は、私の想像を遥かに超えるものであった。流れる水の音は、耳障りの良く、心地良いものでありながら、確かな雄大さも感じられる。何よりも特徴的なのはその清らかな水の流れであり、そのままでも飲めるのでないかと思ってしまう程に澄み切っていた。初めて北上川の壮大な景色に触れた私は、この時それに魅了されていたのだろう。目の前の景色に夢中で、すぐにその場を離れることができなかった。

それから一年以上の時が経ち、国語の授業で渡された北上川について記されたプリントを見た私は、驚き

を隠すことができなかった。北上川は、かつて「死んだ川」と呼ばれるまで汚染されていたことに。その裏には、松尾鉱山での硫黄の採掘があった。採掘が進むにつれ、硫化鉄鉱と水、空気中の酸素との反応により発生する強酸性水が抗廃水として排出されるようになったのだ。強酸性水であるだけでなく、有害物質であるヒ素を含むこの抗廃水は、松川と北上川の合流点から北上川を汚し、魚類の生息が不可能になってしまった。関心が高まった私は、帰宅した後にそのことについて、インターネットを利用して調べてみたが、変わり果てた北上川の姿に衝撃を受けた。私の知る美しい北上川は、スマートフォンの中に映る北上川の画像のどこにもなく、その時の私は目の前の事実を信じることができなかった。旧松尾鉱山新中和処理施設の建設など、人々の努力によって、北上川がもとの美しさを取り戻したのは、昭和五十七年のことであった。

北上川を流れる澄みわたった水は、人が生きていくのに必要不可欠な資源であるだけでなく、雄大な自然の美しさを象徴する存在でもあり、その地域の観光資源の他、人々の心を癒やす存在にもなり得えるのではないか。そのような大自然が、人々の活動により汚され、損われてしまうのは、生物の住む環境に影響を与えるだけでなく、私達人間にとっても大きな損害なのではないか。北上川に魅了された私は、そんなことを思ってしまう。

私は、北上川の景色が大好きだ。環境を保全し、守っていくことが、我々にとって大切なのではないか。

佳作（岩手県知事賞）

未来を生きる人々のために

盛岡市立土淵中学校
一年　遠藤　夢月

私が住んでいる地域は、見渡す限り田畑が並んでいる。友達は、「こんな田舎よりも、東京みたいな大都会へ行ってみたい」と言う。だが私は、美しい緑や、透き通る水が流れる岩手の自然を誇りに思っている。

私の祖父母は農家だ。田んぼはもちろん、畑仕事も行っている。祖父は朝早く起きて、田んぼの水を調節しに行き、祖母はその間に花だんの花や畑の野菜に水をやる。生き物が生きてゆくには、水が欠かせない。私は二人を見てそう思う。

小学四年生のときに、学校の横を流れる越前堰の学習をした。越前堰は、雫石町から盛岡にわたり流れる用水路だ。この越前堰があるため、私達の住む地域は、農業がさかんである。大昔の先人のおかげで私達は、食べ物に困ること無く生活ができている。先人の力に感謝しないと、と思う。

最近、「地球温暖化」や、「シーオーツー」という言葉をよく耳にする。世界では、地球温暖化により、干ばつが進んだり、水が無くなり、死んでゆく人々が数多くいるということを知った。また、世界人口が増え、安全な水が手に入らない人だっている。その中には、私達と変わらない子供もいるそうだ。

日本も地球温暖化の被害を受けていない訳ではない。気温が上昇し、作物が育たなくなってしまったり、多くの物を外国から輸入しなくてはならない状況になっている。

この現状を見て考えると、私たちは今、水道から水が出ることも、毎日お風呂に入れることも、きれいな水が川に流れることも、当たり前だと感じている。だが、これらは当たり前ではない。今現在も苦しんでいる人が数えきれないほどいるということを忘れてはならない。

では私達は、その人達のために何ができるか。この

ようなことは今までだって考えたことはあるのだが、結局私達は行動に移すことが難しいのだ。「かわいそうだな」、「何かできることはないかな」と考えるが、結果思うだけで終わってしまう。

この問題に対し、地球に生きる者としてどう向き合うことができるか。それは、一人一人の意識で変わると思う。私達は、世界の水問題に背を向けず、しっかり見て、現状を知ることをすることで、これからの未来は変わるのではないだろうか。私達が小さなことでも、みんなですることで、未来に生きる人々が生きやすい社会にすることができるのではないだろうか。ほんの小さなことでも、これが大きな意味をもつ。

私は、岩手の緑豊かで、美しい自然が好きだ。世界も美しい自然に囲まれ、人々が苦しむことなく、不自由なく暮らしてほしいと思う。だがしかし、それは誰かが努力しないとできないことであり、その誰かだけではできないことだ。そのために、今から、今を生きる人が、少しずつ、みんなで、未来に生きる人々のために、努力して変えていかなければならない。私達が水を大切に使うことで、未来の人々の幸せにつながりますように。

佳作（岩手県知事賞）

私とお米と水と

盛岡市立土淵中学校
二年　坂倉　みのり

私は、お米が好きです。なぜなら、おいしいからです。毎日、家で食べるお米も、学校の給食で食べるお米も、ぜんぶ好きです。それは、あったかくて、やさしくて、ほっとする味です。

私は、小学校五年生のときに、総合的な学習の時間で、お米を作る体験をしました。はだしになって苗を植えました。苗を植えたあと、足がどろだらけになったので、近くの用水路で洗いました。初めは、気持ちよかったけど、ずっとつけていると、冷たいと感じました。農家の方が「その水が、おいしいお米をつくっているんだよ。」とおっしゃっていました。そう言われてみれば、ここの用水路の水は、きれいな透明で、とても冷たいなと思いました。これが、おいしいお米を育てる水なのだと分かりました。農家の方は、「大切なのは、きれいな水を使うこと。」そうおっしゃっていました。おいしいお米を作る秘密はすぐいつもとなりにある〝水〟にあると知りました。気になったので、もう少しお米と水について調べてみることにしました。

調べてみると、岩手県で、米作りが盛んなのは「きれいな水」が豊富だからということが分かりました。岩手山につもった雪がとけた水や雨水が地面にじっくりしみこんでゆっくりろ過されて流れてきます。その水は、きれいで、しかも、ミネラルが豊富なため、お米を育てるのにいいそうです。安心安全な水で作るからこそ、安心安全でおいしいお米ができると分かりました。米と水は切っても切り離せない関係だと分かりました。

一方で、近年の気象に目を向けてみると、今年の冬の雪は、今まで私が生きてきた中で一番少なかったように感じます。また、五月の気温は三十度近くとまるで夏のようです。これは太平洋側だけのことではなくて、日本海側でもおこっていることです。そうすると、

心配なのは、雪が降らなくなって、夏に暑くなることで、きれいな水が、どんどんへってしまうのではないかということ。日本一の米の生産地である、新潟県で、お米がとれなくなってしまうのではないかということです。そもそも、「水の惑星」とよばれる地球からなぜ水がへっていっているかということですが、原因は、私たち人間にあります。私たちは、水は永遠になくならないと思って、いつもむだ使いをしています。水道は出しっぱなし、ペットボトルの水はのみきらないなど常に、必要以上に水を使ってむだにしています。小さなことではあるけれど、日本中、いや世界中の人がやりつづけたら、いつか、本当に水がなくなってしまいます。水がなかったら、私たちはもちろん、虫も鳥も、植物も生きられない。大好きなお米も育たない。そんな未来がまっているとしたら、どうしますか。

私はお米が大好きです。なぜなら、おいしいからです。ですので、私は、お米を育てる水を大切にします。今からだけれど、少しずつ大切にする努力をします。

すべては、大好きなお米のために。大切なものを守るために。

佳作（岩手県知事賞）

水とＳＤＧｓ

盛岡市立見前中学校
三年　立花　啓悟

私の学校で、美術の授業のときＳＤＧｓについて考える時間があった。そこで、私は一つ気になる項目を見つけた。それが、六項目目の「安全な水とトイレを世界中に」だ。私は普段、当たり前のようにトイレを使い、蛇口から出てくる水を飲んでいる。水というものが安全か否かなど考えたこともなかった。だが、これが世界問題となっているのだ。私はこの項目について調べてみることにした。

まず最初に調べたのが、この項目についての日本の現状だ。調べたところ、日本の水道普及率は９８％だそうだ。一見、高そうな数値に見えるが、裏を返せば残りの２％、約２３０万人は水道が利用できていないということになる。これを知ったとき、「だからＳＤＧｓの達成は難しく、それでいてとても大切なんだ」と感じた。ＳＤＧｓを掲げるうえで、「世界中で」や「みんなが」という言葉がよく使われている。その項目の普及率が１００％にならない限り、それが達成されることはない。私たちは残り２％にも目を向けていかなければいけないということだ。

次に、この項目を世界規模で調べてみた。ユニセフによると、約２０億人もの人が安全な水を利用できていないそうだ。特にアフリカの地域での普及率は２５％を下回っているそうだ。この事実を知ってようやく「安全な水とトイレを世界中に」が世界問題であることを認識した。私にとっては、蛇口をひねれば安全な水が出てくる。これが当たり前だった。だが他の地域から見たとき、これは当たり前ではなく、有り難いものだったのだ。あまりにも生活にとけこみすぎていて、安全な水が身近にある生活が当然だと思っていた。だが世界基準で見たとき、そうではないと知り、今世界がどれほど危険な所に身をおいているのかが分かった。

最後に調べたのが、自分に何ができるのかということだ。調べてみると、石けんや洗剤を使いすぎない、お風呂の残り湯を有効活用する、こういったことでＳＤＧｓに貢献できるそうだ。世界的な問題でも私たちがほんの少し、普段の生活を変えるだけで解決へと近づいていくのだ。これは、ＳＤＧｓの問題解決以外にも当てはまるのではないだろうか。どんなに大きな問題も、私たちの少しの変化で変わっていくのだ。

今回は「安全な水とトイレを世界中に」という項目に焦点を当てて、様々なことについて調べた。その中でも、特に私に刺さった言葉がある。それが「現状を知る」だ。私も美術でＳＤＧｓについてふれることがなければ、今回のように何かを調べて、気付き、発見を得ることはなかっただろう。そのくらい今の私たちは、社会問題などを他人事にしてしまっているのではないか。大切なのは、物事を自分事として捉えること。そうすれば、世界はもっと良い方向に変わっていくのではないだろうか。そのために、まず私は水に関わる行動を改めてみようと思う。洗剤の量、お風呂の水の再利用、やることは些細なことなのだ。この些細なことをみんなで取り組んで、「安全な水」を世界中に普及させていきたい。全ての人の生活に安全な水があってほしい。そう願って私は水と向き合い直そうと思う。

佳作（岩手県知事賞）

雫石川の水

盛岡中央高等学校附属中学校
二年　三船　優奈

私が雫石川について調べてみようと思ったきっかけは、盛岡市から配布された防災マップに大雨により雫石川が氾濫した場合、我が家は二階の床下まで浸水するおそれがあるという事が分かったからだ。

今までほとんど穏やかな雫石川しか見た事がなく、多少大雨になったとしても驚くほど水量が多いとは思わなかった。それがこの防災マップには、浸水地域が色分けされており、まさか家が浸水するとは思ってもいなかった。今後起こりうる水害について何をすべきなのか考えたいと思う。

まず雫石川がどんな川なのか調べてみることにした。

雫石川は岩手県を流れる北上川水系北上川支流の一級河川である。岩手県と秋田県の境に位置する秋田駒ケ岳に源を発し東へ流れる。御所ダムを経て、盛岡中心部で本流の北上川に合流する。御所ダム下流の鹿妻穴堰で雫石川から分水された水路は盛岡、紫波地域の田園地帯を潤している。雫石川は自然豊かな山々からとてもきれいな水が流れている。遠方に住む釣り好きの祖父が、いつか雫石川で釣りをしてみたいと話していた。アユやヤマメ、サクラマス、イワナ、ウグイなどが釣れるそうだ。どれも水質が綺麗な川にしかいない種類だ。そして調べていくうちに雫石川の漁業組合の人たちが川を守っていることも知ることができた。どこにでもある川だと思っていたが、良いところがある事がわかり、改めて雫石川の良さを知ることができた。

小学生の時に、鹿妻穴堰へ社会科見学に行った。水の多さと勢いがとても強かった事が印象に残っている。鹿妻穴堰は、雫石川から農業水路で田んぼや畑に沢山の水を送っている。かつては暴れ川と呼ばれていたが、人の手によって管理され現在の姿になっている。鹿妻穴堰は、日本の農業を支えてきた代表的な用水として

次世代に伝え今後も維持し活動して行く疏水百選にも選ばれている。農業用水に利用されたり、生活用水に使われたりと私たちの生活にかかせないものとなっている。

しかし過去には水害も起きている。大雨により増水し堤防が崩れたり、最農地などが侵食され大きな被害があった場所もある。そういった被害から護岸工事がされ河川の堤防を保護している。ただ岸をコンクリートブロックで整備しているだけでなく多自然川づくりの取り組みもしている。多自然川づくりとは河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや文化と調和し、生物の生息、生育、繁殖環境など管理していくということだ。このように雫石川は沢山の人の手が加わっていることがわかった。

しかし、自然を人が管理していても大きな災害が起きたときに全てを防ぐことはできない。それに加え、いつ災害が起きるかはわからない。だから減災できるように防災対策が大切だと考える。防災対策の例として飲料水、食料品や衛生用品の備蓄が挙げられる。さらにハザードマップなどで避難場所を事前に確かめて災害が発生した時は早めに安全な場所へ避難できるよう行動する。我が家では非常食を１階に置いているがハザードマップを見て１階が浸水してしまうことを考えると２階にも非常食を置くべきだと思った。そしてこのことを家族で共有することも大切だと、そして災害が起きた時、自分の身は自分で守れるよう日頃から心掛けていきたい。

そして、自然豊かな雫石川の清流を今後も見守っていきたい。